

おはよう

2006年7月5日

発行 土佐市民病院労働組合

2交代制問題学習会特集 NO.1

日本医労連 大村副委員長を迎え学習会 2交代制の問題点が浮きぼりに！

6月27日に2交代制問題の学習会をリハビリ室で行いました。30名あまりが参加しました。大村副委員長は、医労連作成のリーフレットを使い、国内外の科学的な研究成果の紹介や全国の豊富な経験を交えて講演。2交代制がいかに関問題点を多く抱えた勤務形態であるかを明らかにしました。



夜勤はそもそも体内リズム(サーカディアンリズム=体内時計)に反した反生理的な勤務形態であり、欧米諸国では夜勤者の労働時間の短縮や日常生活の不便の解消などの優遇措置がとられている。

長時間夜勤は、疲労を増幅させ、集中力の低下やストレスの増加をもたらす。長時間勤務が作業能率を低下させ、リスクを大きくするという研究報告を紹介。医療事故を防止し、安全・安心の看護を提供する点でも大きな問題があると指摘しました。

また、「私が相手しているのは、人の命なんです。疲労がピークを迎えると思えば回路はうまく動かない状態なんです。私たちも人間なんです。人が眠るときに起きていることさえ、本来大変なことなんです。それなのに、心も体も病んでいる人たちを看護するのは、心や体が疲れきっていたら、できないんです。」という看護師のメッセージも紹介しました。

連続の休みが取れるなどのメリットが強調されているが、広島大学病院や長崎日赤の例でも示されている通り、年休がまったく取れなくなるとかスパー日勤といわれる長時間日勤が導入されるなどしている。長時間夜勤による疲労の増大で、たまの連休も連休でなくなる、といった実態を明らかにしました。参加者からは、2交代勤務に対する強い不安の声が出されました。

組合では、当面早急に「組合との合意なしに2交代の導入も、試行の実施もしない」という口頭約束を文書化し、協定化します。また、2交代勤務の問題点をシリーズで明らかにしていきます。